

海軍武功相違委員殿

軍極秘

第一遣支艦隊機密第三七號八

自昭和十七年二月一日

至昭和十七年三月二十日

三月十五日送付

8/10

第一遣支艦隊戰時日誌

第一遣支艦隊司令部



一經過
(一) 一般情勢

大東亞戰爭ハ益有利ニ進展シ敵ノ最大據点ト頼リ新嘉坡モ遠ニ陥落シ東亞ノ海陸空ハ完全ニ我軍ニ制壓セラレ至レリ
 破竹ノ勢ノ皇軍ノ前ニ敵ヲ今マ敵聯合軍司令部所在地タル瓜島ハ丘ニ累卵ノ危キニアリ印度ノ濠洲亦危機ニ直面シアリ
 多年將政權援護ヲ國是トセル未英モ自己陣營ノ防衛ニ追シ對支援助ノ余力ナキニナラス反對ニ之ニ頼リトスルニ氣配アリ
 蔣介石亦頹勢挽回ヲ策シ自ラ印度ニ出張シ中印合作ヲ折衝協議スル等躍起ノ活動ヲ續ケツアルモ外部ヨリスル我軍ノ攻撃ハ内部ニ於ケル國共ノ相剋和平氣運ノ濃厚ノ幹部ノ對立等ノ爲メナル成果ヲ望ムルノ望ナキモノ如シ
 尚我ガ軍ノ赫々タル戰果ハ樞軸諸國家ヲシテ大ニ士氣ヲ昂揚セシメ各地ニ於テ積極的對敵動作ヲ執ラシムルニ至リタルト共ニ蘇聯ヲシテ我ガ軍ノ攻撃ヲ極度ニ危懼セルルニ至レルモノ如シ

(四) 敵軍ノ情勢
 當艦隊警備區域周邊ノ重慶軍ハ敵側屢次ノ整編ニモ拘ラズ其ノ戦力ハ衰退ノ一途ヲ辿リツクアリ蔣介石ハ重慶軍ノ戦力ハ其ノ一ヲ師

ヲ以テシテ尚日本軍ノ一乃至ニゲテ隊ニ對抗シ得ルカ如キ貧弱ナル状態アリトシ時局重大特ニ他力依存ヲ許サザル現況ニ於テ反攻実力ノ充實ヲ急務ト認メ其ノ整編ヲ命ジ以テ斯クトモ一軍ヲ克ク日本軍一師ニ匹敵スル充實力ヲ養成ニ努メントシツツアリ

而シテ五月未反攻準備完成ノ目途シ二月上旬ヨリ全面的整訓ヲ開始セルモノ如シ目下各方面共陣地其ノ他防備施設ヲ強化スルト共ニ我が企圖偵知ニ努メアリ全般的ニ何等積極的動向ヲ認ム之ニ反シ敵ノ宣傳及謀略工作及游撃戰ヲ強化シ益努力シル形跡アリ

敵ニ部兵力ヲ編向北方ニ進出シアリ又雲南佛印國境方面ニモ兵力ヲ集結シ我が作戰牽制ヲ期シツアルモ未ダ之等ニ關スル顯著ナル動キヲ見ズ

大東亞戰爭ノ將政權ニ對スル影響ハ未ダ其ノ深刻ナルモノヲ認メ得ザルモ漸次國共相剋及和平氣運醸成ノ傾向大ナリツアルモノト認ム

(一) 一般任務

- (1) 岳州附近ヨリ下流蕪湖(含ス)ニ至ル揚子江水路維持確保
- (2) 同右流域及附近内河運河湖氷ニ於ケル敵兵力撃破水路維持確保

52

(三) 艦隊編制

- (1) 特別任務
- (2) 品貯藏所、政府機關等、攻撃
- (3) 海軍占據地域、確保安定
- (4) 下揚子江附近ニ於ケル敵兵力軍事施設交通線、運輸機關、軍需

支那方面艦隊		區分		艦船部隊		特設艦船部隊		所屬	
第一遣支艦隊		附屬		熱海三見、伏見、隅田、宇治		漢口警備隊、九江警備隊		司令官	
				安宅、勢多、堅田、比良、保津		第三海軍病院、第六海軍三用郵便所、第一遣支艦隊軍法會議		司令官	
				吳		吳		司令官	

備考一、宇治、第一遣支艦隊司令官、作戰指揮ヲ受ケツアリ

0900

二二カ十日附第三海軍病院
病舎トシテ残置セラレタリ
ハ廢止セラレ旧病院ハ漢口警備隊

1900

53

(四)

揚子江部隊軍隊區分		昭和三十七年二月一日現在	
區分	兵	指揮官	分担區域
主隊	熱海	第遣支隊司令長官	全般
漢口方面	漢口警備隊 陸上部隊 小鷹、膠濟、蛭子丸 砲艇(中型五、舢舨二、舢舨二、小發二、滑走艇一、六) 八號曳船、竹丸、長官艇一、舢舨四、内火通船一	漢警備隊司令	武漢海軍警備區 城口(含之)ヨリ陽 羅(含之)ニ至ル揚 子江本流漢川附 近ヨリ下流、漢水 及同沿岸
警戒隊	伏見、比良、堅田 特設砲艇四(40、41、42、43) 砲艇(漢警所屬中型一、小發一、滑走艇一)	伏見艦長	沌口(含之)ヨリ上 流城陵磯ニ至ル揚 子江本流洞庭湖 及同沿岸
上流警戒隊	隅田、保津、新鵜興 特設砲艇四(41、42、43、44) 砲艇(漢警所屬小發一)	隅田艦長	陽邏(含之)ヨリ官 湖港(含之)ニ至 ル揚子江本流及同 沿岸
中流警戒隊	安宅、勢多、二見、竹生 特設砲艇七(40、41、42、43、44、45、46) 九警派遺安慶陸戰隊	安宅艦長	湖口(含之)ヨリ 蕪湖(含之)ニ至 ル揚子江本流及 同沿岸
下流警戒隊	九江警備隊 陸上部隊 文星、海州、楓丸、四鬼 砲艇(中型四、舢舨八、機艇五、小發二、滑走艇一、内火通船二)	九江警備隊司令	官湖港(含之)ヨ リ湖口(含之)ニ至 ル揚子江本流都 陽湖南昌ニ至ル 贛江水路及同沿 岸
九江方面	九江警備隊		
警戒隊			
記事	<p>將旗ヲ陸上廳舎ニ移揚中熱海ニ主トシテ中警ニ協力ス ルモノトス</p> <p>滑走艇、欄分子ニ常用分母ニ補用トス</p>		

(五) 軍隊區分變更

ナシ

(一) 作戰指導

(一) 中央其他トノ連絡指揮官、判断作戰計畫及令達、要旨茲ニ行動漢口警備隊ハ、編制替ニ伴フ、兵力縮少ノ爲ニ月五日漢警旅遣石灰窰陸戰隊ヲ撤退原隊ニ復皈セシメタル外特記スルキモナシ

(二) 麾下友軍ノ行動概要

(一) 麾下

主隊

熱海ハ前月下旬ヨリ引續キ九日迄上流方面警戒隊ニ協力セリ

又二十三日以降中流警戒隊ニ協力シ二十六日一〇三〇陸戰隊ヲ揚陸羊磯燕磯(鄂城下流六哩左岸)一帯ヲ檢索掃蕩シ青龍刀等ノ兇器四具ヲ押收セリ

口上流警戒隊

哨區ヲ移動警戒シ江岸水路ヲ確保セリ

昨年十一月以降二月末日迄ニ城陵磯ニ於テ歸順シ来レル者

大尉中尉少尉各一名下士官三名計六名ナリ

伏見ハ二十七日揚林磯ニ於テ(ア)A型(イ)機雷一個ヲ分解處分セリ

堅田ハ五日觀音洲沙嘴前面ニ於テ(ア)A型(イ)機雷一個十四日岳

州下流クリーク内ニ於テ坐洲A型(三)機雷一個ヲ夫々揚收分解
處分セリ

此良ハ十一月〇三〇易昌海匪約五〇名牌洲ニ来襲セルヲ以テ直ニ陸
戦隊ヲ揚陸遁走セシメタリ

ハ中流警戒隊

哨遠ヲ移動警戒シ江岸及水路ヲ確保セリ

隅田ハ七日。八四。陸戦隊ヲ廻風磯(石灰窰上流七哩左岸)ニ揚陸

紅襖巢方面(帶)ヲ掃蕩セリ。二十五日。三河口(漢口下流四十哩右岸)附

近ニ沈坐セルA型(三)機雷一個ヲ發見爆破處分セリ

新鴻興ハ十三日午後陸戦隊ヲ揚陸江池ヨリ中磯觀(團風上流三哩

右岸)ニ至ル間(帶)ヲ掃蕩宣撫セリ。更ニ十九日午後鴨蛋洲

(漢口下流四十哩)ニ陸戦隊ヲ揚陸(帶)ヲ掃蕩宣撫セリ

ニ下流警戒隊

哨區ヲ移動警戒シ江岸及水路ヲ確保セリ

竹生ハ二十二日。彭澤上流一〇〇米右岸及下三號洲(彭澤上流五哩)

南方水路ニ於テC型(三)機雷十二個(内坐洲一個及陸軍發見五個)

含キ)ヲ分解處分セリ

尚右機雷ハ敵ガ石門街(彭澤東南方約四十軒)ニ最近運搬セル

一〇の個ノ内ノ一部ヲ中英口附近(彭澤上流十哩右岸)ヨリ放流セルモノト認メラル

ホ漢口方面警備戒隊

哨區ヲ移動警備戒シ江岸水路及警備地區ヲ確保セリ

漢口警備隊ハ三八日殘存漢口敵國權益信義公司(宋)大東洋行(宋)ヲ接收セリ

漢水警備戒隊十號砲艇ハ四月ニ漢川檢問所上流約六〇〇米左岸ニ於テ奉銃ヲ有スル數名ノ便衣カ新四軍援護ノ下ニ民船ニテ岩塩ヲ密

輸中ニテ發見一名ヲ射殺シ一名ヲ負傷セシメ岩塩一五〇斤民船一

ヲ押收セリ

漢水警備戒隊ハ二十日趙家台(漢口上流十一哩漢水右岸)上流一哩石灰

墩及漢門徑ニ敵匪若干潛入シアリトノ報ニ接シ一三〇小鷹陸戰隊

及三號砲艇ヲ以テ該地區一帯ヲ掃蕩セリ

九江方面警備戒隊

哨區ヲ移動警備戒シ江岸水路及警備地區ヲ確保セリ

九江警備隊陸軍大賀部隊南昌方面作戰ニ協力中ノ處ニ

日市漢街(南昌上流二十哩)水路ヲ沈船一隻及機雷二個ヲ爆破

處分シ一〇〇〇作戰ヲ終了セリ本作戰ニ於ケル機雷處分數累小

計十四個

(2) 被砲撃、遭難状況

十五日二〇。大孤山西方六〇〇米ニ於テ坐洲C型(三)機雷一個爆破
 處分セリ
 文星、三日官湖港、九江間ニテ我克六十八隻検問ヲ實施セリ異状
 ナシ

月日	場所	艦(船)名	記
二、一四	陸溪口洲 (龍口上流八里)	陸軍機備船 第五新興丸	坐洲引却ノ爲竹丸ヲ派遣セルモ自力離洲
二、一六	牧鷺洲	第四三砲艇	一五四。坐洲新鴻興ハ民間船ノ協カヲ得テ 七日一四。離洲セシメタリ

觸雷ナシ

(3) 友軍

呂集團及第二六師團共顯著ナル討伐攻撃ハ實施セズ次期作
戦ヲ目途ニ速ニ戦力ノ整正備更張ヲ圖リ特ニ教育練成ニ力ヲ盡
シ全般の各兵團共警備區域内ノ肅清ヲ實施セリ
武漢地區ノ警備ハ二月五日附武漢警備隊ヨリ獨立混成第九

旅團ニ繼承セラレタリ
尚應城ニアリシ漢水北方京漢線西方地區警備中ノ獨立混成第
十八旅團ハ第五十八師團ニ改編セラレ二十八日其ノ警備ヲ引継ガリ

(三) 敵軍ノ動向

敵軍ハ動キハ全般の低調退嬰的ニシテ各戰區共我軍ハ進攻ヲ臆
測警戒シテ二月初ノ整正編ヲ開始セリ其ノ游擊行動ハ我通信交通ノ
妨害ニ重キヲ置キ益強化ノ傾向ニアルモ我軍ハ徹底的討伐ヨリ封殺
セラレ其ノ行動件數前月ニ比シ著シク減少セリ然ハトモ和平軍ニ對スル
反正策謀等特務戦ハ益積極的ニシテ最近武漢地區ニ於ケル最
強謀畧部隊タル黃衛軍ニ對シ重慶中央ヨリスル直接反轉工作熾烈
ナルモアリシモ其ノ見込ナキニ至ルヤ有カナル兵力ヲ以テ武力攻撃シ来リ
在揚林山(白螺磯下流)黃衛軍ノ一部ハ喜戰之ヲ擊退セルモ敵軍再

攻ヲ準備シアルモノ如シ
第一第五戰區間ニ於テ機動豫備的存在ナリ湯恩伯指揮ノ第
三集團軍ハ第一戰區ニ轉位シ曩ニ第六戰區ニ轉場移動中ナリシ
第五九集團軍ハ再々復讐シ老門口北方アリ第五戰區豫備兵
團トナルモノ如シ

第六戰區ハ一部兵力抽出スレアリ其ノ兵力相當減少シアリ
第九戰區ハ中旬ニ至リ我が軍ガ三度長沙進攻ヲ企圖シアリト判断シ
戦斗配置ニ就キ更ニ他戰區ヨリモ兵力ヲ轉用シアルモノ如シ

敵航空部隊ノ動キモ活潑ナラズ
敵佈雷隊ハ彭澤東南方四十料石門街附近ニ機雷ヲ搬入シアリ
中旬中交口附近ヨリ放流セルモノ如シ

(四) 作戰ニ影響セル事項
特ニナシ

(三) 戰備並ニ政策事項

(二) 戰備

(一) 政策事項

軍艦多々良(拿捕米砲艦空ナク)ハ中旬以降上流方面ヲ行動セヌ

シレ漢口滯在中(十九日二十三日)第一遣支艦隊司令長官ノ區處ヲ
 受ケシムレタリ

同艦漢口碇泊中ハ日華樞軸國各方面關係者ヲ招待シ交歡會
 ヲ催スト共ニ廣ク一般ニ拜觀ヲ許可シ更ニ部日華學生記者團
 等ニ便乗ヲ許可シ少時航行セリ

尚石匠密九江安慶ニモ寄航交歡及宣傳ヲ行ヘリ
 同艦ハ大東亞戰爭勃發直前迄漢口ニ在リシモノニテ嘗テ星條旗
 ノ揚リ居タル檣頭ニ翻ル軍艦旗ヲ仰キ見テ齊シク大日本帝國ノ國
 威ノ伸度ト巖然タル勝利ノ事實ヲ深ク深ク感銘シタルベシ

今以テ尚デマ宣傳ニ耳ヲサ積シアル中華國人モ巖然タル事實ノ前
 ニ疑フ餘地無カルベク國威宣揚民心收攬上寄與セル所極メテ大
 ナル功アリト認ム

人員ノ現狀

(イ)司令部
 (ロ)職員官氏名

職	主務	官	氏名	記	事
司令長官		海軍中將	侯爵小松楢久	十四日海軍司令部出仕	

同	同	同	同	同	同	同	同	司令部附	主計長	軍醫長	機関長	副官兼參謀	同	同	參謀	參謀長	同
功績主任	廢務主任	暗號士	掌通信長			同	同	特務				諜報	技管 工補給	情報 宣傳	全取補佐 警備		
海軍主計中尉	海軍計兵曹長	海軍兵曹長	海軍兵曹長	海軍主計少尉	海軍軍區中尉	海軍主計中尉	海軍主計中尉	海軍中佐	海軍主計中佐	海軍軍醫大佐	海軍機関大佐	海軍少佐	海軍少佐	海軍少佐	海軍大佐	海軍少將	海軍中將
阿部一男	片山淺敷	永夜秋雄	藤田勝春	平國端	堤弘久	羽田恒久	増田利章	肥後市次	新井實	伊藤資	鳥山祐藏	井上三郎	原田力	中野忠夫	花田卓夫	一瀬信一	牧田覺三郎
					兼漢口警備隊司令承命服務			兼軍令部員	兼漢口警備隊主計長 兼海軍經理部漢口支部長		兼第一海軍支隊部漢口支隊長						十四附親補 大日着任

8	7	6	5	4	3	2	1	月名
	新灘口 一三三。 新灘口 一五一。	新灘口 一三三。 新灘口 一五一。	鄧家口 九一五。	鄧家口 一〇。	鄧家口 一〇。	煤炭洲 一〇。		熱海
		漢						伏見
	城陵磯 一八。	老官廟 〇九。	城陵磯 〇九。	老官廟 一六。				堅田
	口	灘	新					比良
石炭密 一〇一五。	石炭密 〇七五。	石炭密 〇七五。	石炭密 〇七五。	石炭密 〇七五。	石炭密 〇七五。	石炭密 〇七五。	石炭密 〇七五。	隔田
劉海沙 一〇一五。	南京 〇八。	南京 〇八。	南京 〇八。	南京 〇八。	南京 〇八。	南京 〇八。	南京 〇八。	保津
	黃洲 一八。	牧德洲 一四四。	牧德洲 一四四。	牧德洲 一四四。	牧德洲 一四四。	牧德洲 一四四。	牧德洲 一四四。	新瀨
								安宅
								勢多
	涼	南						二見
	太陽洲 一七五。	成德洲 一八一。	成德洲 一八一。	成德洲 一八一。	成德洲 一八一。	成德洲 一八一。	成德洲 一八一。	竹生
老龍嶽	馬當鎮 九。	小孤山 一八二。	小孤山 一八二。	小孤山 一八二。	小孤山 一八二。	小孤山 一八二。	小孤山 一八二。	小鷹
		蔡						文星
	江	九						海州
上								

四參考
山麾下艦船部隊行動

麾下艦隊行動

8200

(三) 寫 眞
ナ
シ

(四) 戰 訓
特ニ
ナ
シ

0024

40

四月二十五日提出

軍極秘

海軍大臣殿

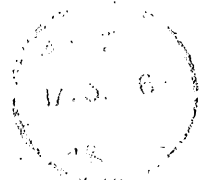
第一遣支艦隊機密第三七號ノ一。

自昭和十七年三月一日
至昭和十七年三月三十一日

2/18

第一遣支艦隊戦時日誌

第一遣支艦隊司令部



一、經過
(1) 一般情勢

皇軍、東印度全域制圧、ラシグーン陥落、緬甸及印度洋制圧ニ依リ、敵聯合軍ハ其連鎖ヲ完全ニ撃碎セラルニ至リ、敵ハ最後、據英タル濠洲、防衛ト印度、懷柔ニ狂奔シテアリ

重慶側ハ緬輸送路カ海陸ヨリ遮斷セラレタル為、愈孤立ニ陥リ、援蔣物資社、悉シ内部對立動搖、兆益大トナリ、ツツアルモノ、如シ

蘇聯、向背ハ依然トシテ、明確ナラザルモ表面上日蘇關係ハ平穩ヲ保テアリ

(2) 敵軍情勢

蔣介石、米英ニ對シ頻リ援蔣ヲ繼續シ、太平洋方面増兵ヲ從心、且蘇聯、對日攻撃ヲ策動シ、對内的ニ最後、勝利ハ聯盟側ニアリトテ各種虛構宣傳ニヨリ情勢、不利ニ陰蔽シ、國內輿論、衰退防止ニ努メアリ

然レドモ戰局、實相ハ逐次各層ニ傳播スルニ至リ、又最モ危惧シアリシ緬輸送路、遮斷現實化シ、物資、入支杜絶、物價、急騰等ハ抗戰不能論ヲ表面化セントシ、又親蘇派、對蘇接觸強化意見進出

共産党ノ潜行的努力擴充等内部對立動搖ノ兆ヲ呈スルニ至
ルモ、如シ

目下全般ニ整編實施中ニシテ我軍情偵察等ノ爲一部ヲ潛入セシ
メアル外動向低調ナリ整編ノ進捗モ亦意ノ如クナラズ著ルシク滯滞シ
ルモノ如シ

一方衛立煌ヲビルマ派遣軍司令長官ニ任ジビルマ國境ニリシ二個軍ヲ
ビルマニ遣入セシメ事實上英軍ト協同作戰ヲ開始シ其一部ハ日本軍
ノ前面ニ現出セルモ全般の精極的動向ヲ認メズ
敵空軍及佈雷隊モ顯著ナル動向ヲ認メズ

(ハ) 任務、編成、配備
→ 一般任務

- (1) 岳州附近ヨリ上流蕪湖(含ス)ニ至ル揚子江水路維持確保
 - (2) 周右流域及附近内河運河湖水ニ於ケル敵兵力擊破水路維持確保
 - (3) 海軍占據地域ノ確保
 - (4) 下揚子江附近ニ於ケル敵兵力軍事施設交通線運輸機關軍需
及貯藏所政府機關等ノ攻撃
- 特別任務

艦隊編制

支那方面艦隊	第一遣支艦隊	附屬	京治安宅勢多堅田比良 保深熱海二見伏見隔田	特設艦船部隊	特設艦船部隊 所管鎮守府	支那方面艦隊長官	第一遣支艦隊長官	司令官
				漢口警備隊	吳			
				九江警備隊	吳			
				(第六海軍少用郵便所)				
				(第一遣支艦隊軍法會議)				

備考 守治ハ第一遣支艦隊長官長官ヲ作戰指揮ヲ受ケテ了リシ處ナリ
八月附之ヲ解カル

(四)揚子江部隊軍隊區分 昭和十七年三月一日現在						
區分	兵	指揮官	分担區域	主隊	警戒隊	記事
		第一遣支隊隊長	全般	漢口方面 漢口警備隊 陸上部隊 小鷹、膠濟、煙子丸 砲艇(中型五、秋三、舢二) 小發、滑走艇一、(六) 子曳船、竹丸、長官艇一 舢四、内火通船一	上流警戒隊 伏見、比良、堅田 特設砲艇四(407 408 409 417) 砲艇(漢警所屬)中型一 發、滑走艇一	中流警戒隊 隅田、保津、新鴻興 特設砲艇四(401 402 410 411) 砲艇(漢警所屬)小發一
		安宅艦長	漢口警備隊司令	九江方面 九江警備隊 陸上部隊 文星、海州、視九、四甲 砲艇(中型四、秋八、機艇五) 小發、滑走艇三、(火通船三)	下流警戒隊 安宅、勢多、二見、竹生 特設砲艇七(404 405 412 413 414 411) 九警派遺安慶陸戰隊	將旗ヲ陸上廳舎ニ移揚中、勲海ハ主トシテ中警ニ協力スルモノトス 滑走艇、欄分子ト常用分母ト補用トス
		九江警備隊司令	武漢海軍警備 區域、光口(含マ) ヨリ陽邏(含マ) ニ至ル揚子江 本流、漢川附近 ヨリ下流ノ漢水 及同沿岸	九江警備隊司令	安宅艦長	湖口(含マ)ヨリ 蕪湖(含マ)ニ 至ル揚子江本流 及同沿岸
		伏見艦長	光口(含マ)ヨリ 上流、城陵磯 ニ至ル揚子江本 流、洞庭湖及同 沿岸	隅田艦長	陽邏(含マ)ヨリ 官湖港(含マ) ニ至ル揚子江本 流及同沿岸	官湖港(含マ)ヨリ 湖口(含マ)ニ至 ル揚子江本流 都陽湖、南昌 ニ至ル贛江水路 及同沿岸

(四) 軍隊區分、変更

月	日	艦名	新警戒隊	旧警戒隊	記
三	一八	宇治	主隊		第二遣支隊司令官長官ノ作戰指揮ヲ受ケアリシ處之ヲ解カル

(三) 作戰指導

(一) 中央其他トノ連絡指揮官判斷作戰計畫及令達ノ要旨並ニ行動増水ニ伴フ機雷ノ放流繫維索切斷依ル流出案ニ對シ注意喚起セル外特ニナシ

(二) 麾下支隊ノ行動概要

の麾下

熱海ハ十六日ヨリ十八日迄上流警戒隊ニ協力シ十七日長旺洲灯船附近ニ陸軍帆船五子丸ノ發見揚收セシ(一) A型(三)機雷一個ヲ分解處分セリ

二十一日ヨリ二十七日迄中流警戒隊ニ協力シ二十一日午後武林港(蕪春下流六哩岸)ニ陸戰隊ノ揚陸附近一帯ヲ掃蕩宣無セリ

二十六日武林港發上江中一四〇頃蕪春上流ニ埋附近ヲ先行上江

中、第四一砲艇對シ江岸ヨリ便衣、敵匪三名銃撃セルヲ以テ直
ニ砲撃(八顆ニ發)潰走セシメタリ
三十日以降、上流警戒隊ニ協力セリ

上流警戒隊

○敵第一二六師所屬中佐一名城陵磯ニ於テ上流警戒隊ニ歸
順セリ

○伏見城陵磯基地聯合陸戰隊及城陵磯保安隊ハ七日。三。○
城陵磯發進敵游撃隊ヲ據英七嶺頭(城陵磯東方十軒)

ヲ夜襲シ一四三。陸戰隊ヲ收容セリ捕虜三名容疑者三十四名拉
致容疑者中密偵七名アリ雲漢陸軍警備隊ニ渡セリ

我輕傷一。伏見九日新港(臨湘磯下流ニ連)ニ陸戰隊揚陸
掃蕩宣撫セリ

北良ハ十六日陸溪口陸軍警備隊ト協力刘家墩(龍口上流四哩
右岸)唐公山(龍口對岸)一帶ニ陸戰隊ヲ揚陸掃蕩スルト共ニ孔匪

約千名ヲ據莫多山高嶺(龍口對岸南七軒)ヲ砲撃セリ

本流急激増水ニ伴ヒ上流方面ニ於テ緊急維新切斷品敵機留、浮
流シ来レルモノ漸次増加シソコリ其、處分状況左ノ通

中流警戒隊
哨區ヲ移動哨戒シ江岸及水路ヲ確保セリ
隅田ハ三月廿二日江鎮(黄石港對岸約八軒)ニ新四軍約二三十名出
没シ其ノ後方ニ有カナル部隊アリテ江岸襲撃ノ機ヲ規ヒテアリト
報ニ接シ陸戰隊ヲ蘭溪鎮ニ揚陸シ陸軍ト協力シ紅石巢(迴風
磯東方四軒)及至家祖(紅石巢東方四軒)方面ニ掃蕩セリ
更ニ日鐵曳船カ欄排磯(田家鎮上流四哩左岸)附近ニ於テ十五日
午後江岸ヨリ射撃ヲ受ケタリト報ニヨリ十七日午後陸戰隊ヲ欄
排磯ニ揚陸シ附近ニ掃蕩セリ

月日	艦(隊)名	場所	機雷種別	個數	處分法	記事
三月七日	城陵磯基地隊	仙峯岩	◎A型(三)	一	分解	
八日	伏	城陵磯岳州間	◎A型(三)	四	同右	
十五日	比	新堤直路	◎B型(三)	一	同右	
十五日	伏	城陵磯岳州間	◎A型(三)	二	同右	
二十一日	伏	城陵磯基地隊	◎A型(三)	三	同右	
合計	十五個(外ニ熱海ニ揚收セルモノ一箇)	洞庭湖	◎A型(三)	四	同右	

尚二日鄂城附近ニ於テA型(三機雷)一個揚收分解處分セリ
新鴻興ハ十七日陸戰隊ヲ揚陸シ平磯(鄂城下流七湮右岸)附
近一帯ヲ掃蕩宣撫セリ

ニ下流警言戒隊

哨區ヲ移動警言戒シ江岸及水路ヲ確保セリ
勢多ハ七日及十日夫々烏石磯(東流下流五湮右岸)及溝口(東流
下流七湮左岸)ニ陸軍部隊ヲ發見セルC型(三機雷)一個ヲ分
解處分セリ

ホ漢口方面警言戒隊

哨區ヲ移動警言戒シ江岸水路及警備地區ヲ確保セリ
漢水警言戒隊ハ新四軍第五師一三旅收班長方志敏以下數名
及一五旅財政部長張執一以下數名蔡甸ニ潛入種々畫策中ナリ
ト、情報ニ接シ七八兩日陸戰隊ヲ派シ憲兵隊及縣政府警言察隊
ト協力蔡甸及附近一帯ニ亘リ偵察掃蕩肅清ヲ實施七月夕
刻前者中三名及後者中一名ヲ逮捕セリ
九日小鷹及三號砲艇ハ陸戰隊ヲ揚陸蔡甸三角洲全角ニ齊
檢問檢索セリ

十日一三。頃一號砲艇、趙家台下流五百米、警泊中、余十墩(漢口上流九里漢水左岸)ニ銃聲ヲ聞キ又銃彈飛来セルヲ以テ直ニ艇員ヲ揚陸江岸ヨリ約七百米奥地ニ於テ我陸軍ト交戦中ノ敵便衣匪ヲ銃撃一名ヲ負傷敗走セシメタリ

二十三日一號及五號砲艇上下航船舶ニ九隻ヲ檢問物品ノ不正搬出ヲ企圖セル小型戎克一及該物品ヲ押收セリ

二十四日航行違反戎克三隻ヲ摘發下流檢問所ニ送致セリ

二十六日敵匪蔡甸附近人心攪乱ヲ企圖潛入シアリトノ情報ニ依リ一號及七號砲艇協力テ下ニ小鷹ヨリ陸戰隊ヲ揚陸蔡甸附近ニ對岸一帯ヲ肅正ヲ實施セリ

九江方面警備隊

哨區ヲ移動警備戎江岸水路及警備地ニ確保セリ

九江警備隊ハ二十四日〇八ニヨリ一六一五迄銃隊ヲ小隊及楓丸中型砲艇ヲ以テ張家洲一帯ヲ掃蕩宣撫及泊地附近戎克四十四隻ヲ檢査セリ

三十一日〇二〇〇ヨリ〇〇〇迄鄱陽湖及贛江水路ノ一帯檢査施行戎克六十五隻ヲ檢査セリ

(2) 被砲撃遭難状況

月日	場所	艦(船)名	記
三十一	黒沙洲南港 (秋港下流五湊)	大同海運会社 大陸丸(三三三三噸)	上記、浦所ニ坐洲セルヲ三見、引却作業援助セリ
十五	檜栂磯	日鐵見船	江岸ヨリ射撃ヲ受ノ十七日、岡田陸軍隊ヲ以テ一帯ヲ掃蕩セリ
二十六	新倉上流三湊	第四二號砲艇	江中ニ在リテ、便衣ニ銃撃ヲ受、續行、熱海砲隊ヲ敗走セシメリ

觸雷 ナシ

1947年

呂集團及第一六師團共前月ニ引續キ戦力整備更張ノ圖リテ

京漢線南潁線ニ對シテ敵ノ游擊行動增加ノ傾向ニテ各
兵團現地警備隊鐵道隊等ハ積極的掃蕩ニ依リ之ガ防止努

メアリ
獨立混成第九旅團ニ三月武漢地區ノ警備ヲ担任以來跳梁シテ

シ新四軍ヲ完全ニ掃蕩シ且當面敵第一八師ヲ壓迫シテ之ヲ潛
伏セシメ以テ内部ノ治安肅清ヲ劃期的ニ向上セシメアリレガニ

警備地域ノ第五十八師團ニ引續ケリ
楊林磯方面ニ駐屯警備ヲ担任シテアリシ黃衛軍(第十軍)有力ナル

謀略部隊)ハ十七日楊林磯ヲ撤退煤炭洲上流一帯左岸東閣老
ニ進駐新堤ヨリ金口鎮ニ至ル揚子江岸地區警備ヲ就ケリ同方面

ニアリシ汪步青ノ軍モ黃衛軍ニ改編セラレタリ

(三) 敵軍ノ實況

蔣介石ノ同盟國ト統一的作戰ニ出テンガ為三月ノ局部的攻撃ハ一時
中止シ予定、如ク整訓ヲ繼續スル命セリ但シ第一線部隊游擊隊

等ヲ以テスル游撃戦ハ依然積極的ニ実行シテストレアリ然レドモ我が
内部地域ノ肅清ニ依リ各游撃隊戦力著ク低下シ強行的游
撃ヲ見ガレニ至ルモ潜行ニ依ル交通通信線ニ對スル妨害依然執拗ニ
モアリ

特ニ第五戰區ノ京漢線ニ對シテ游撃行動増加傾向アリ列車ノ
被害極メテ多シ

第六戰區ノ敵ハ我襄西地區兵團ヲ配備變更ニ伴フ部隊ノ移動ニ
刺戟セラレ一部ヲ潜入セシメ或ハ陣地内ヨリ迫撃砲ヲ以テ威力的搜索
ヲ試ミタルモ全般的ニハ顯著ナル動キヲ認めズ

第九戰區ハ主力ヲ依然長沙方面ニ配置シ陣地ヲ補強其他我軍ノ
進攻ニ備ヘアリレモ下旬ニ至リ日本軍大舉進攻ノ企圖ナシト判断シ稍
空堵シアルモノノ如ク看取セラレ

敵空軍ハ我本土及南方要域背後ノ要地ニ對シテ進攻準備ヲ進メ
ツアリ

衢州玉山麗水各飛行場ハ活氣ヲ呈シ又建甌ニ飛行場
新設中ナリモ我航空部隊ヲ為潰滅セラレタリ

敵佈置隊ハ本部ヲ常德西部ニ置キ種々策動シテト稱セラルル
モ表面的ニハ活潑ナル動キヲ見ズ

(四) 作戰ニ影響セル事項

(1) 急激ナル増水ニ伴ヒ上流方面ニ於テ繫索切斷セル機雷浮流シ来レ
ルモノ漸次増加シテアリ浮流機雷ニ對スル警戒ヲ一層嚴ミル要アリ
(2) 尚増水ニ伴ヒ本流クリーク間ノ民船航行増加シ物資ノ不正搬出
入航行違反等續出シアリ
(3) 楊林磯方面黃衛軍が東閣老方面ニ轉進セル爲白螺磯螺山方面
ノ警備ハ手薄トナリ治安幾分不良化スルノ懸念アリ

(五) 戰備並ニ政策事項

特ニナシ

人員ノ現状

(1) 司令部

(一) 職員官氏名

職	主	務	官	氏名	記	事
司令長官			海軍中將	牧田覺三郎		
參謀長			海軍少將	一瀬信一		
參謀	全職 作職	謀略 警備	海軍大佐	花田卓夫		
司	情報 補佐	宣傳	海軍少佐	中野忠夫		

同	同	同	嘱託	長官承命服務	同	同	同	同	同	同	同	同	司令部附	主計長	軍醫長	機關長	副官兼參謀	參謀	
同	同	同	特務		功績主任	庶務主任	暗號士	掌通信長					同	同	同		謀報	防諜	運輸 工補給
同	同	高等官待遇	海軍主計特務大尉	海軍看護長	海軍主計兵曹長	海軍主計兵曹長	海軍兵曹長	海軍兵曹長	海軍主計少尉	海軍軍醫中尉	海軍主計中尉	海軍主計中尉	海軍中佐	海軍主計中佐	海軍之數中佐	海軍機關大佐	海軍少佐	海軍機關少佐	
劍持 智勇二	飯津 禮守一	今津 榮治	大谷 銀一郎	上原 秀雄	阿部 一男	片山 浅敷	永夜 秋雄	藤田 勝春	平國 端	堤 弘文	羽田 恒久	增田 利章	肥後 市次	新井 實	伊藤 實	鳥山 祐藏	井上 三郎	原田 力	
									十六日附 任海軍主計中尉	兼漢口警備隊司令承命 服務	十六日附 任海軍主計大尉		兼漢口警備隊主計長 兼海軍經理部漢口部長			兼第一海軍之需部漢口部長			

四、參考

(1) 麾下艦船部隊行動

日	7	6	5	4	3	2	1	日名
熱海	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	熱海
宇治	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	宇治
伏見	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	伏見
比良	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	比良
堅田	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	堅田
隅田	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	隅田
保津	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	保津
新瀨	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	新瀨
興安	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	興安
宅	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	宅
多	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	多
三見	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	三見
竹生	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	竹生
小	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	小
文星	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	文星
海州	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	漢口	海州

25		24		23		22		21		20		19		18		17	
武林港 ○九二〇	富池口 ○九二〇	上海 ○一六〇	桐排磯 ○一五〇	桐排磯 ○一五〇	桐排磯 ○一五〇	桐排磯 ○一五〇	桐排磯 ○一五〇	桐排磯 ○一五〇	桐排磯 ○一五〇	桐排磯 ○一五〇	桐排磯 ○一五〇	桐排磯 ○一五〇	桐排磯 ○一五〇	桐排磯 ○一五〇	桐排磯 ○一五〇	桐排磯 ○一五〇	桐排磯 ○一五〇
←		←		←		←		←		←		←		←		←	
←		←		←		←		←		←		←		←		←	
陸漫口 ○二〇〇	新灘口 ○一五三〇	新灘口 ○一五三〇	通津 ○九〇〇	漢口 ○一〇〇〇	漢口 ○一〇〇〇	漢口 ○一〇〇〇	漢口 ○一〇〇〇	漢口 ○一〇〇〇	漢口 ○一〇〇〇	漢口 ○一〇〇〇	漢口 ○一〇〇〇	漢口 ○一〇〇〇	漢口 ○一〇〇〇	漢口 ○一〇〇〇	漢口 ○一〇〇〇	漢口 ○一〇〇〇	漢口 ○一〇〇〇
←		←		←		←		←		←		←		←		←	
←		←		←		←		←		←		←		←		←	
石炭窟 ○一五二〇	九八江 ○九八〇	九八江 ○九八〇	安慶 ○一〇〇〇	銅陵沙 ○一〇〇〇	銅陵沙 ○一〇〇〇	南京 ○一〇〇〇	南京 ○一〇〇〇	南京 ○一〇〇〇	南京 ○一〇〇〇	南京 ○一〇〇〇	南京 ○一〇〇〇	南京 ○一〇〇〇	南京 ○一〇〇〇	南京 ○一〇〇〇	南京 ○一〇〇〇	南京 ○一〇〇〇	南京 ○一〇〇〇
←		←		←		←		←		←		←		←		←	
←		←		←		←		←		←		←		←		←	
九八江 ○一〇〇〇	彭澤 ○一〇〇〇	彭澤 ○一〇〇〇	海豐 ○一〇〇〇	燕湖 ○一〇〇〇	燕湖 ○一〇〇〇	安慶 ○一〇〇〇	安慶 ○一〇〇〇	安慶 ○一〇〇〇	安慶 ○一〇〇〇	安慶 ○一〇〇〇	安慶 ○一〇〇〇	安慶 ○一〇〇〇	安慶 ○一〇〇〇	安慶 ○一〇〇〇	安慶 ○一〇〇〇	安慶 ○一〇〇〇	安慶 ○一〇〇〇
←		←		←		←		←		←		←		←		←	
←		←		←		←		←		←		←		←		←	
三江口 ○一〇〇〇	梅 ○一〇〇〇	梅 ○一〇〇〇	新洲 ○一〇〇〇	新洲 ○一〇〇〇	新洲 ○一〇〇〇	新洲 ○一〇〇〇	新洲 ○一〇〇〇	新洲 ○一〇〇〇	新洲 ○一〇〇〇	新洲 ○一〇〇〇	新洲 ○一〇〇〇	新洲 ○一〇〇〇	新洲 ○一〇〇〇	新洲 ○一〇〇〇	新洲 ○一〇〇〇	新洲 ○一〇〇〇	新洲 ○一〇〇〇
←		←		←		←		←		←		←		←		←	
←		←		←		←		←		←		←		←		←	
彭澤 ○一〇〇〇	安慶 ○一〇〇〇	安慶 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇
←		←		←		←		←		←		←		←		←	
←		←		←		←		←		←		←		←		←	
彭澤 ○一〇〇〇	安慶 ○一〇〇〇	安慶 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇	大通 ○一〇〇〇
←		←		←		←		←		←		←		←		←	
←		←		←		←		←		←		←		←		←	

8600

51

軍極秘

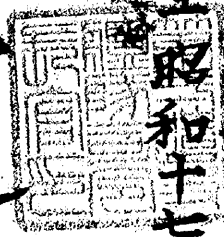
海軍省防務部
調査委員 殿

第一遣支艦隊機密第三七號之二

自昭和十七年四月一日

至昭和十七年四月三十日

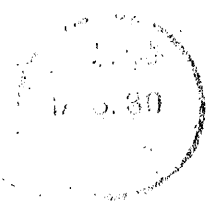
五月二十二日



第一遣支艦隊戰時日誌

第一遣支艦隊司令部

8
18



一 經過
二 敵情勢

大東亞戰爭ノ戰果ハ着々擴大シテ殆ト東印度諸島ヲ制圧成リ印度洋上ニ於ケル帝國海軍ノ活躍ハ北部緬甸占領ト相俟ツテ印度ニ一大脅威ヲ與ハ一方重慶ノ物資不足ヲ益深刻トシメアリ
緬甸方面ニ於ケル英將聯軍ハ連繫和合ノ圓滑ヲ欠キ離反シタルモノ
如シ

各占領地ノ建設工作ニ着々進行中ニシテ住民ニ我國ノ意ヲ体シテ積極的ニ協力明朗ナル國土建設ニ邁進シアリ
四月十八日日本本土ハ初ノ敵空襲ヲ受ケタルモ右ハ敵ノ單ニ敗戰湖塗ニ過ギンモノノ如ク大ナル被害ナカリシノミナラズ却ツテ將兵ニ一般國民ノ士氣ヲ昂揚セシメタリ

三 敵軍情勢

全般動向ハ依然低調ナルモ蔣介石ノ特務戰強行ノ命ニ依リ下旬ニ於テ稍活潑ナル動キヲ見タリ然レ共我陸軍ノ徹底的攻撃ヲ制圧ニ依リ總テ封殺セラルリ
緬甸派遣重慶軍ハ英軍トノ不和茲ニマシダレ一陷落ニ依リ昆明方面ニ

道走セルモノ如シ。尚緬甸輸送路、完全制圧ニ依リ重慶攻權ハ僅ニ中
 印中蘇輸送路ニ依リ余喘ヲ保テツ、アルモ道路ノ不備輸送量ノ少
 少等ノ為軍需物資ノ缺乏甚クシキモノ如シ
 糧食等、如キモ從未部隊ノ現地調解ヲ嚴禁シ軍糧局ヲシテ之ヲ處
 置セルモノアリ、最近再ビ各部隊ニ、現地徵收ヲ行ハシメタル現狀ナリ
 敵空軍ハ浙江江西省方面ノ飛行場ヨリスル對日本本土攻撃ノ企圖シ着
 タル飛行場整備ニ當リ、ワ、アルモノ、如ク又之等ヲ米國機ニ使用セシムトシツ
 ツアリ、十八日日本本土ヲ空襲セル米機モ衢州麗水玉山等ノ飛行場ニ我陸海軍航
 空部隊ノ攻撃ニ依リ破壊サレタリ
 重慶側空軍及布雷隊ハ夫々攻撃ノ企圖ヲ有スルモノ、如キモ持ニ顯著
 ナル動向ヲ認メズ

(二) 任務、編制、配備

(一) 一般任務

- (1) 岳州附近ヨリ下流蒸湖(含ミズ)ニ至ル揚子江水路維持確保
- (2) 同右流域及附近内河運河湖水ニ於ケル敵兵力撃破水路維持確保
- (3) 海軍占據地域ノ確保安定

(三) 艦隊編制

(二) 特別任務

(四) 下揚子江附近に於て敵兵力軍事施設交通線運輸機關軍需品貯藏所政府機關等を攻撃す

支那方面艦隊	第一遣支艦隊	附屬	艦船部隊	特設艦船部隊	特設艦船部隊 所管領中府
			宇治安宅勢多堅田比良 保津熱海二見伏見隅田		
			漢口警備隊		
			九江警備隊		
			第六海軍前部便所 (第一遣支艦隊軍法會議)		
			吳		
			吳		
支那方面艦隊司令官	第一遣支艦隊司令官				

備考

四月二十五日附漢口在勳海軍武官府設置セラレ從來艦隊司令官部に於て掌理中、特務事務に同府ニ移サレタリ

記 事		九江方面 警戒隊	下流警戒隊	中流警戒隊	上流警戒隊	警戒隊	漢口方面 警戒隊	主 隊	區 分	兵 力	指 揮 官	分 担 區 域
<p>一將旗ヲ艦隊司令部廳舎ニ移揚中ノ宇治及熱海ハ主トシテ 警戒隊ニ協力スルモノトス 二滑走艇ノ關分子ハ常用分母ハ補用トス</p>		<p>九江警備隊 陸上部隊 文星、海州、楓丸、四號、曳船 砲艇(中型)五、八、機艇五 小發二、滑走艇二 丙火傳馬船二</p>	<p>安宅、比良、二見、竹生 特設砲艇七(401 402 403 404 405 407 411) 九警備隊遺安慶陸戰隊</p>	<p>伏見、保津、新鵜興 特設砲艇四(410 411 412 413) 砲艇(漢警所屬小發一)</p>	<p>隅田、勢多、堅田 特設砲艇四(408 409 414 415) 砲艇(漢警所屬中型)小發一</p>	<p>漢口警備隊 陸上部隊 小鷹、膠濟、蛭子丸 八號、曳船、竹丸 砲艇(中型)六、秋一二、船一二 小發二、滑走艇二 長官艇一、丙火傳馬船一</p>	<p>宇治、熱海</p>	<p>第遺支艦隊長官會 全 般</p>	<p>(四)揚子江部隊軍隊區分 昭和十七年四月一日現在</p>	<p>兵 力</p>	<p>指 揮 官</p>	<p>分 担 區 域</p>
		<p>九江警備隊司令</p>	<p>安宅艦長</p>	<p>伏見艦長</p>	<p>隅田艦長</p>	<p>漢口警備隊司令</p>	<p>武昌海軍警備 區域沌口(含々) 二至陽邏(含々) 二至揚子江本 流漢川附近 及同沿岸</p>	<p>湖口(含々)ヨリ 蕪湖(含々)ニ 至ル揚子江本流 及同沿岸</p>	<p>陽邏(含々)ヨリ 官湖港(含々) 二至揚子江本 流及同沿岸</p>	<p>沌口(含々)ヨリ 上流城陵磯ニ至ル 揚子江本流洞 庭湖及同沿岸</p>	<p>官湖港(含々) 二至揚子江本流 及同沿岸</p>	

(五) 軍隊區分、變更

月	日	艦(隊)名	新警戒隊	旧警戒隊	記
四	一	伏見	中警隊	上警隊	中警指揮官ノ伏見艦長ニ 上警指揮官ノ田中艦長ニ 配屬砲艇之伴ト多少異動 有リ
同	日	隅田	上警隊	中警隊	
同	日	北	下警隊	上警隊	
同	日	勢	多上警隊	下警隊	
同	日	滑走艇	漢口方面警戒隊	上警隊	
四	五	熱海	中警隊	主隊	
同	日	新瀉	漢口方面警戒隊	中警隊	

(二) 作戰指導

(一) 中央其他ト、連絡、指揮官ノ判断、作戰計畫及令達ノ要旨ヲ

行動、(1) 下流方面ノ敵ノ動向稍活潑ナルヲ以テ九江方面警戒隊及下流警戒隊

ヲシテ特ニ警戒ヲ嚴ニセシム

(2) 九江警戒隊ヲシテ二十三日以來陸軍工兵隊ニ協力十八日夜南昌上流

贛江中ニ墜落セル米國飛行機揚收作業ニ從事セシム

(3) 増水ニ伴フ機雷ノ放流繫維索切断ニ依ル流出等ニ對シ注意ヲ喚起ス

(二) 麾下友軍の行動概要
麾下下

不主隊

熱海一日後金關陸戦隊ヲ揚陸一帯ヲ檢索セリ
二日夜及三日朝後金關上流一湍右岸ニ陸戦隊ヲ揚陸檢索ヨリ
確認シアリシ易冒海匪徵稅員本據(距岸約四軒)ヲ奇襲一名
ヲ射殺本據ル家屋ヲ燒却セリ
上流警言戒隊

哨區ヲ移動警言戒シ江岸及水路ヲ確保セリ

隅田二十九日臨湘縣一帯二十四日觀音洲一帯ニ陸戦隊ヲ揚陸
掃蕩宣撫セリ

勢多ハ六日物資蒐集為下江物資蒐集班員が水洪口(新灘口)
下流六湍(左岸)附近ニ於テ機銃射撃ヲ受テ急援ヲ乞ヒ来レル
ヲ以テ同地ニ急行陸戦隊ヲ揚陸附近一帯ヲ掃蕩セモ敵匪約

三〇名ハ逸早く遁走セリ
城陵磯基地隊ハ二十五日一三〇頃基地附近ニ未襲ル敵匪約二

名ヲ銃撃撃退セリ

上流方面ニ於テ本支流急激増水ニ伴ヒ繫維索切斷セ敵機雷ヲ

(一) 中流警戒隊
 哨區ヲ移動警戒シ江岸及水路ヲ確保セリ
 伏見ハ十七日陸戦隊ヲ以テ蘭溪及黃石港陸軍警備隊ト協力シ戴
 家洲一帶ヲ掃蕩シ匪三名ヲ逮捕セリ
 (二) 下流警戒隊

計九個(他漢口警備隊が歸洲ヲ處分セルモアリ)

月	日	艦名	場所	機雷種別	個數	處分	處分
四	二十	城陵磯基地隊	城陵磯	A型	一	分	解
	二十	同	同	同	一	同	解
	二十	同	同	同	一	同	解
	二十	同	同	同	一	同	解
	二十	同	同	同	一	同	解
	二十	同	同	同	一	同	解
	二十	同	同	同	一	同	解
	二十	同	同	同	一	同	解
	二十	同	同	同	一	同	解

浮流シ来レルモノ依然トシテ多シ處分狀況左如シ

哨返ヲ移動警戒シ江岸水路ヲ確保セリ

安宅ハ十五日五三陸軍部隊ト緊密ナル協同ノ下ニ敵佈留隊約
三十名ノ常駐地七里湖(東流附近)對岸ノ部落(距岸七五料)ヲ砲
撃(十二種一〇八種四)シ十二種砲七發ノ命中彈ヲ與、該部落
ノ大半ヲ崩壞セシメタリ

七日一五〇。玉帶洲(東流上流一哩)ニ於テ陸軍發見ノ機雷(三)三個ヲ
爆破處分セリ

下旬下流方面ニ於テ敵ノ反攻稍顯著ナルモアリタリ

二十二日湖東村(東流下流二哩在岸)西十料附近ニアル敵渡江管
理大隊ハ我軍ノ作戦ヲ察知雷港村(娘々廟對岸)ヨリ方家洲
(東流上流七哩右岸)新洲下端方面ニ兵器及軍需品ヲ移動シ企
圖シアリトノ情報ニヨリ安慶陸戰隊官洲左岸港道黄石磯方面
ヲ嚴戒セリ

(亦)漢口方面警戒隊

哨返ヲ移動警戒シ江岸水路及警備地ニ確保セリ

漢口警備隊ハ二十五日沌口及牌洲ニ於テ(ア)A型機雷各一個ヲ分
解處分セリ

漢水警戒隊小鷹ハ十三日十五日石炭嶽(漢口上流十二哩漢水右岸)

(ハ)

附近水陸一齊檢問ノ實施物資ノ不正搬出者ヲ檢舉セリ
 又二十三日漢川附近二十四繫馬口(漢川上流八里左岸)ニ陸
 戰隊ヲ揚陸掃蕩セリ

漢水警戒隊一号及五号砲艇ハ二十日一号及六号砲艇ハ二十七日蛇
 落口(漢川上流八里漢水左岸)附近ニ於テ檢問實施物資不正
 搬出者ヲ檢舉セリ

九江方面警戒隊

哨區ヲ移動警戒シ江岸水路及警備地域ヲ確保セリ

九江警備隊ハ中旬小銃百輕機十ヲ有ル敵正規軍が昌邑街(吳
 城上流十里)ヲ襲撃シ企圖ヲ以テ象湖(吳城上流十三里)附近ニ集結
 セルヲ以テ極力移動哨戒ヲ實施セルモ異狀ヲ認メズ

十五日。四。頃敵兵約五十名洗脚橋(九江南方約十二里)ニ約六十
 名(迫撃砲輕機ヲ有ス)旅團司令部ニ約百名大東門(九江東端)方
 面ニ來襲セルモ二五頃陸軍部隊ヲ擊退シ海軍担任區域内異

狀ナシ

湖口方面ニ於テ二十日老攻山修舍利方面(湖口ノ七〇度約二十五里)ニ

敵三個師買均橋(湖口南東約十里)ニ敵約六百集結シテ

二十日二四五湖口背面ニテ中隊(約三百名)來襲セルヲ以テ湖口砲艇基

地員に配備ニ就キ警戒ヲ嚴ニシ
 敵主力カハ。頃我陸軍部隊為三里街方面ニ撃退セラレ内約一ノ小
 隊湖口城内ニ侵入シ敵歸順兵ヲ奪還セルモ七〇。迄ニ撃退セラレタリ
 砲艇一部ハ夜半葉家湖方面ニ進出敵ヲ退路ヲ遮断スルト共山中ヲ
 退却スル敵ヲ銃撃セリ
 湖口基地員ハ二十一日一五。湖口ヨリ梅家洲(湖口對岸)ニ無許可渡
 航者十八名ヲ逮捕憲兵隊ニ引渡セリ
 二十二日湖口方面ノ情勢ニ鑑ミ陸戰隊一小隊ヲ九江ヨリ湖口ニ増
 派シ二十四日之ヲ撤退セリ
 敵第一四六、一四七師及奮勇隊ヨリ選抜、便衣隊約九百ガ二十九
 日夜ノ期シテ湖口襲撃ノ企圖シ賈均橋及藍亭嶺(湖口南方約
 六料)一帶ニ集結シアリトノ情報ニ接シ二十九日。七〇陸戰隊ヲ
 再ハ湖口ニ増派セリ
 二十八日二三。九江警備隊中型砲艇一隻ハ湖口上流方面警戒中
 陸上ニ便衣隊ヲシキセノ五名ヲ發見銃撃撃退セリ
 九江警備隊司令ノ指揮スル作業隊ハ二十三日以降陸軍工兵
 隊ニ協力シ十八日夜南昌上流贛江江中ニ墜落セル米國飛行機
 揚收作業ニ從事セリ

(2) 被砲撃遭難状況

月日	場所	艦(船)名	記
四、六、水、洪口	陸軍物資蒐集班	掃蕩	勢多現場ニ急行陸戦隊ヲ揚陸

水深八米、流速三節ニシテ潜水作業不可能ナルモ海軍作業員ノ絶
 大ナル努力カニ依リ其ノ重要部品ヲ大部分ヲ揚收スルヲ得タリ
 三十日迄ニ揚收セル主ナル物件ハ
 發動機(十六汽筒)一基、發動機外廓、主翼二部、車輪脚一
 脚柱(滑走輪脚)一、線縦席一部、燃料タンク、防弾覆一部、給油
 管一部、小型變圧器一、無電装置、配電盤一、爆彈投下器一、爆
 撃照準望遠鏡一、三耗機銃及同彈倉(實包約六百發入)各一
 小型落下傘一
 二十九月南昌大橋上流二哩ニ於テ(一)A型(二)機雷一個ヲ發見處分セリ
 九江測量隊測量艇ニ十二月贛江水路南昌下流九哩附近ニ於テ(三)
 A型(三)機雷一個ヲ處分セリ

(3) 友軍

友軍集團及第一六師團共前月ニ引續キ戦力整備更張ノ圖
 ト共ニ各兵團毎ニ積極的討伐ヲ實施セリ特ニ江北地區ノ京漢線
 以東警備第三師團ハ連續シテ管内全域ニ亘リ討伐戰ヲ繼續
 シ敵匪ノ温存地帯ヲ清掃覆滅シ且多量ノ物資ヲ蒐集スル等
 ノ成果ヲ收メタリ
 陸軍管内ニ於ケル敵ノ謀畧策謀ハ下旬ニ入りテ其ノ兆ヲ認ムルニ至
 リシルモ各兵團ノ機先ヲ制スル掃蕩ニヨリ封殺セラレタリ
 安慶方面ニ於テハ敵ノ蠢動相當活潑アリシモ我第一六師團之ヲ
 掃蕩鎮壓セリ

(三) 敵軍ノ實況

敵軍ノ實況ニ依テ改編實施及之ニ伴テ人事異動ニ依ル各機
 關ノ幹部教育ニ努メタリ
 蔣介石ハ便衣混成隊ヲ以テスル特務戰強行ヲ指令シ游撃部隊
 テ之ニ策應セシメ且之ヲ收容ニ當ルハク指令シ
 下司ニ於テ之等ノ相當活潑ヲ動キヲ見セタリ
 第五戰區ノ敵ハ管内新四軍及匪軍ノ攻勢ヲ企圖シアリ

京漢線東側地區ノ敵游撃部隊ハ第三師團ノ連續不繼ノ討伐ヨリ敵線内ニ退避セルモ再ハ信陽地區ニ蠢動謀畧策應ノ兆アリ

第六戰區ノ敵ハ一部游撃行動ヲ實施セル外概不動向低調ナリ

第九戰區ノ敵ハ一部部署變更セル外主力ハ依然長沙附近ニアリ

粵漢線南潯線ノ破壞通言妨害ヲナサントシアリ

第三戰區鄱陽湖方面ノ敵ハ相當活潑ニ蠢動セリ

漢川地區新四軍ハ戰斗力大ナラザルモ其ノ對民衆政治工作ハ巧妙活潑ニシテ近來新四軍ノ陰謀手段ハ國共合併抗戰ニ名ヲ藉リ戰區民衆ノ積極赤化及軍備擴充ヲ計リ以テ將來赤化主義實行ノ基礎ヲラシメントナシアリ

重慶側空軍ノ動向ハ下旬ニ至リ稍活氣ヲ呈シアリ特ニ江西浙江省奧地間ノ連絡頻繁ナリ

米英ハ支那大陸ニ航空基地ヲ獲得シ對日航空作戰ノ前進基地ヲラシメントシ從來各種ノ策謀ヲ繞ラシテ重慶側ニ於テ毛鏡意奧地並ニ浙江江西省方面重要基地ヲ整備擴充シテ四月十八日日本本土ヲ空襲セル米國飛行機ハ衢州麗水玉山等ノ飛行場ニ着陸スバク命セラレ支那方面ニ飛來セリ

爾後該飛行場ヨリ日本本土ヲ空襲セントノ企圖アリレモノ如キモ

其大部ハ飛行場以外不時着シ内若干ハ友軍警備地区内ニ
 不時着又ハ墜落シ搭乗員一部ハ捕虜トナレリ
 揚子江九江上流四湍左岸劉溝附近ニ於テ視發式電氣機雷ヲ
 敷設シ航行船舶ノ爆破ヲ企圖セルモ未だニ發見セラレタリ

(四) 作戰ニ影響セル事項

(1) 急激増水ニ伴ヒ上流方面ニ於テ敷糸維索切断セル機雷漂流シ美
 レルモノ依然多シ浮流機雷ニ對スル警戒層嚴ニスル要アリ
 (2) 増水ニ伴ヒ本流クワリ多ク間ノ民船航行増加シ物資ノ不正搬出
 入航行違反等續出シアリ

(五) 戰備ニ關スル政策事項

特ニナシ

人員ノ現状

(一)司令官
(二)職員官氏名

同	同	同	同	司令官 部附	主計 長	軍醫 長	機關 長	副官 參謀	同	同	參謀 長	參謀 長	司令官	職
		同	同	特務				謀報防謀	改管輸工補作	清報補宣傳	全戰警備	全戰警備		主務
海軍主計中尉	海軍軍區中尉	海軍主計大尉	海軍豫備大尉	海軍中佐	海軍主計中佐	海軍軍醫大佐	海軍機關大佐	海軍少佐	海軍機關少佐	海軍少佐	海軍大佐	海軍少將	海軍中將	官
平國	堤弘久	羽田恒久	増田利章	肥後市次	新井實	伊藤實	鳥山祐藏	井上三郎	原田力	中野忠夫	花田卓夫	一瀬信一	牧田覺三郎	氏名
	兼漢口警備隊司令 命職務			兼漢口警備隊司令 命職務	兼漢口警備隊主計長 兼海軍經理部漢口支部長 三五日附漢在勤警備官		兼第一海軍軍需部 漢口支部長							記
														事

四、參考

(一) 麾下艦隊行動

麾下艦隊行動

日	1	2	3	4	5	6	7
宇治							
隅田	石炭窟 一〇〇〇 天竺湖 一〇〇〇	陽羅 一五二〇 漢口 一四二〇	漢口 一三三〇	漢口 一三三〇	漢口 一三三〇	漢口 一三三〇	漢口 一三三〇
熱多	蕪湖 一〇〇〇 蕪湖 一〇〇〇	漢口 一四二〇	漢口 一四二〇	漢口 一四二〇	漢口 一四二〇	漢口 一四二〇	漢口 一四二〇
堅田	城陵磯 一〇〇〇 老官廟 一〇〇〇	老官廟 一〇〇〇	老官廟 一〇〇〇	老官廟 一〇〇〇	老官廟 一〇〇〇	老官廟 一〇〇〇	老官廟 一〇〇〇
伏見	石炭窟 一四三〇 漢口 一四三〇	漢口 一四三〇	漢口 一四三〇	漢口 一四三〇	漢口 一四三〇	漢口 一四三〇	漢口 一四三〇
保津	石炭窟 一〇〇〇 武林港 一〇〇〇	武林港 一〇〇〇	武林港 一〇〇〇	武林港 一〇〇〇	武林港 一〇〇〇	武林港 一〇〇〇	武林港 一〇〇〇
熱海	新灘口 一〇〇〇 後金閣 一〇〇〇	後金閣 一〇〇〇	後金閣 一〇〇〇	後金閣 一〇〇〇	後金閣 一〇〇〇	後金閣 一〇〇〇	後金閣 一〇〇〇
安宅	彭澤 一〇〇〇 彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇
二見	彭澤 一〇〇〇 彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇
比良	黃石港 一〇〇〇 彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇	彭澤 一〇〇〇
竹生	荻港 一〇〇〇 大通 一〇〇〇	大通 一〇〇〇	大通 一〇〇〇	大通 一〇〇〇	大通 一〇〇〇	大通 一〇〇〇	大通 一〇〇〇
小戸	漢川 一〇〇〇 漢川 一〇〇〇	漢川 一〇〇〇	漢川 一〇〇〇	漢川 一〇〇〇	漢川 一〇〇〇	漢川 一〇〇〇	漢川 一〇〇〇
新堀	石炭窟 一〇〇〇 早磯 一〇〇〇	石炭窟 一〇〇〇	石炭窟 一〇〇〇	石炭窟 一〇〇〇	石炭窟 一〇〇〇	石炭窟 一〇〇〇	石炭窟 一〇〇〇
文星	足邊沖 一〇〇〇 上海 一〇〇〇	上海 一〇〇〇	上海 一〇〇〇	上海 一〇〇〇	上海 一〇〇〇	上海 一〇〇〇	上海 一〇〇〇
海州							

	25	24	23	22	21	20	19	18	17
	漢口 五三〇	鄂城 二二五	鄂城 一七五	九江 九八三	吳城 一七〇	吳城 一六〇	九江 九八五	漢口 〇九〇	漢口 五九〇
	古螺磯 〇九五	城陵磯 〇八三		城陵磯 〇八五	岳州 〇八五	岳州 一一二〇	臨湘磯 〇九〇	臨湘磯 〇九〇	城陵磯 〇九一
		復興洲 一五五	新灘口 〇八四			新灘口 一三二	意口 〇八四		
		海		上					
					石炭窟 一六〇	偉源口 〇九〇	偉源口 一三三	石炭窟 〇九〇	石炭窟 〇九〇
	羅湖洲 一五〇	鄂城 一三三	鄂城 一〇〇	西河浦 〇九〇	西河浦 一〇五	陽羅洲 〇九〇	陽羅洲 〇九〇	陽羅洲 一〇五	白澗山 二〇〇
	田家鎮 三三五	新洲 一〇〇	新洲 一八二	李家洲 〇九〇	李家洲 一〇〇	武林港 〇九〇	武林港 〇九〇	武林港 一〇〇	新洲 〇九〇
	南京 一三〇	下三山 一八五	新開溝 一八四	新開溝 一五一	安慶 一四三	安慶 一四三	安慶 一四三	彭次 〇九〇	彭次 〇九〇
		安慶 一三二	振冬廟 〇八四	振冬廟 一八四	南昌 〇九三	南昌 一五五	吳城 〇八五	湖口 〇九〇	湖口 〇九〇
		高塘洲 一七五	安慶 一六四	池口 一四四	池口 一四四	梅塹 一六二	梅塹 一四二	土橋 一四二	土橋 一四二
	蓮花洲 〇九〇	雷港村 一〇〇	雷港村 一六三	八里口 〇九〇	八里口 一〇〇	中夾口 〇九〇	中夾口 一〇〇	彭次 〇九〇	彭次 〇九〇
						漢川 一〇〇	金家台 〇九〇		
		海	上					金家台 一三〇	石炭墩 〇九〇
				上				白節沙 〇七〇	白節沙 〇七〇
			星					星子 一六五	湖口 一〇〇

